

研究のすすめ方	研究の具体策と配慮事項
<p>〔事後研究〕</p> <p>6. 授業仮説の有効性を検討し、まとめをする。</p>	<p>(2) 検証計画による授業観察・記録の収集を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 授業観察・記録については、授業仮説の効果の測定に焦点をあてる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 抽出児反応行動記録法のような場合でも、仮説としての教師の働きかけに対して、児童生徒の反応、つまりきと予想外の反応、変容動向等、視点を明確にして記録する。 ・ 必要な場合、授業観察・記録の仕方についての事前研修をする。 <p>(1) 事後テスト等から、変容を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前テストの再テストから、伸び率、有効度指数、諸検定等から指導内容到達度を調べる。 ・ 児童生徒のノート、作品分析、自己評価表、事後アンケート、感想等から変容を調べる。 <p>(2) 授業観察記録の整理・診断とそのまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業者は授業仮説にもとづいた自評をまとめて提出する。 ・ 分担記録者各自は、授業仮説の有効性と改善点を明確にして事後研究会に提出する。 <p>(3) 事後研究会により、変容動向、到達状況、授業仮説の有効性をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 各分担記録者から出された「観察記録のまとめ」と授業者の自評をもとに全体研究協議会で検討し、整理してまとめをする。 ◦ 司会進行に当たっては研究成果の共有化を図るために、次のような点に留意する。 <ul style="list-style-type: none"> ア、授業仮説の有効性に視点をあてて協議し、まとめる。 イ、全員から数多くの意見を出させて協議を深め、まとめる。 ウ、授業研究の成果を確認するとともに、その成果を個人として、学校として、「どう活用していくか」をまとめる。 <p>(4) 次回の授業研究会の計画について話し合い共通理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 年間推進計画にもとづき、授業テーマと1～6の手順により実施することを確認する。 ◦ 今回の授業研究の成果をどう取り入れるか、問題点をどう改善するか、その方向を協議する。 ◦ 次回までの日程を確認する。

(その他は、校内研究ハンドブック参照)